平成19年度夏季企画展「まじなひの考古学～異界への祈り～」 展示品目録

番号	品　名	員数	遺　跡　名	所蔵・保管
1	土偶	1	東南遺跡	太子町教育委員会
2	石棒	1	門ノ坪遺跡	姫路市教育委員会
3	分銅形土製品	3	楠特山遺跡	姫路市教育委員会
4	分銅形土製品	1	丁・柳ヶ瀬遺跡	姫路市教育委員会
5	銅剣（復元品）	1	ごうろ遺跡（佐用町）	たつの市教育委員会
6	銅鐸（復元品）	1	上高野遺跡	赤穂市教育委員会
7	銅鐸（復元品）	1	潤賀銅鐸出土地	宍粟市歴史資料館
8	ガラス製勾玉	1	和久遺跡	姫路市教育委員会
9	三角縁神獣鏡（複製品）	5	権現山51号墳	たつの市教育委員会
10	鶏形埴輪	1	白国宮山古墳	姫路市教育委員会
11	鉄剣（復元品）	1	宮山古墳	姫路市教育委員会
12	石製模造品　白玉	30	打越山古墳	姫路市教育委員会
13	石製模造品　勾玉	1	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
14	石製模造品　剣形	2	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
15	石製模造品　有孔円板	1	東前畑遺跡	姫路市教育委員会
16	玉類一括	3	山崎山古墳群	姫路市教育委員会
17	ミニチュア土器	1	船場川東区整遺跡第6地点	姫路市教育委員会
18	鬼板	1	伝播磨国分寺跡	姫路市教育委員会
19	土馬	2	辻井遺跡	姫路市教育委員会
20	土馬	1	東土居遺跡	姫路市教育委員会
21	土馬	1	姫路駅周辺第3地点遺跡	姫路市教育委員会
22	石製模造品　双孔円板	1	辻井遺跡	姫路市教育委員会
23	人形	15	安坂・城の堀遺跡	多可町教育委員会
24	人形	3	辻井遺跡	姫路市教育委員会
25	馬形	6	安坂・城の堀遺跡	多可町教育委員会
26	馬形	2	辻井遺跡	姫路市教育委員会
27	船形	1	辻井遺跡	姫路市教育委員会
28	斎串	13	安坂・城の堀遺跡	多可町教育委員会
29	斎串	1	辻井遺跡	姫路市教育委員会
30	鍬先形	1	安坂・城の堀遺跡	多可町教育委員会
31	呪符木簡	1	大井川区整地内遺跡第４地点	姫路市教育委員会
32	転読札（複元品）	1	英賀保駅周辺遺跡第3地点	姫路市教育委員会
33	銅製経筒	2	アタゴ山経筒出土地	姫路市教育委員会
34	瓦経	18	姫路城跡内堀	姫路市教育委員会
35	卜骨	1	古網干遺跡	姫路市教育委員会
36	土師器皿	9	古網干遺跡	姫路市教育委員会
37	瓦質塊	1	古網干遺跡	姫路市教育委員会
38	一石五輪塔	5	御着城跡	姫路市教育委員会

凡　例

1．本書は、平成19年７月22日（日）から９月24日（祝）まで、姫路市埋蔵文化財センターで開催する企画展「まじなひの考古学～異界への祈り～」の展示解説として作成した。
2．一部の展示品は、展示替えを行うため、期間によっては展示されない場合があります。
3．本企画展の開催及び本書の作成にあたり、多くの機関・関係者の皆様からご指導、ご協力をいただきました。ここにご芳名を記し、感謝の意を表します。（敬称略　50音順）
　植木　友　小東憲朗　芝　香寿人　志水豊章　田路正幸　藤田忠彦　三村修次　宮原文隆　村上由樹　義則敏彦
　赤穂市教育委員会　赤穂市立歴史博物館　稼山市教育委員会　稼山市歴史美術館　宍粟市教育委員会　宍粟市歴史資料館　太子町教育委員会　多可町教育委員会　たつの市教育委員会
　たつの市埋蔵文化財センター　那珂ふれあい館
4．展示パネルの写真については本センター専門職員が撮影したもの以外に、多可町教育委員会より提供を受けました。厚くお礼申し上げます。
5．特別展の企画は当センター専門職員が担当した。
6．表紙はTea conのデザインによるものである。
7．本図録の執筆・編集は堀本裕二が担当し、北野弘子の助力を得た。

姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL　(079)252-3950　/　FAX　(079)252-3952
URL　http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/
E-mail　maibun-center@city.himeji.hyogo.jp

古来人々は、自然界に起こる様々な現象を説明するために「神話」や「呪術」を用いてきました。その主役となる精霊・祖霊への儀礼的行為である「祭祀」には、数多くの舞台装置が準備されました。ここでは、これらの道具立てである祭祀遺物から、人々の精神世界に迫っていくことにしましょう。

石棒（門ノ坪遺跡）

依代の登場

縄文時代には、人間の体を表現した土製・石製の祭祀具が豊富に見られるようになります。土偶・石棒はその代表例です。弥生時代になると、稲作の始まりとともに、銅鐸・銅剣などの青銅器を用いた農耕祭祀が活発になっていきます。

神獣（三角縁神獣鏡 権現山51号墳）

神獣との出会い

古墳は、亡き首長の墓所であるとともに、その強大な力を誇示し、次世代へと継承する場でもありました。祭器としても用いられた副葬品には、中国の神仙思想を取り込んだ鏡も出現してきます。埴輪は、これら葬送儀礼の一端を示しています。

瓦経出土状況

56億7千万年の祈り

平安時代後半ごろには、武士の台頭など社会情勢の変化で治安は乱れ、民衆の不安は増大していました。これと仏法の衰退を予言する末法思想とが一致したことにより、人々は厭世的な思想としての弥勒信仰へと傾倒し、経塚の造営に奔走していくのです。

転用された一石五輪塔（御着城跡）

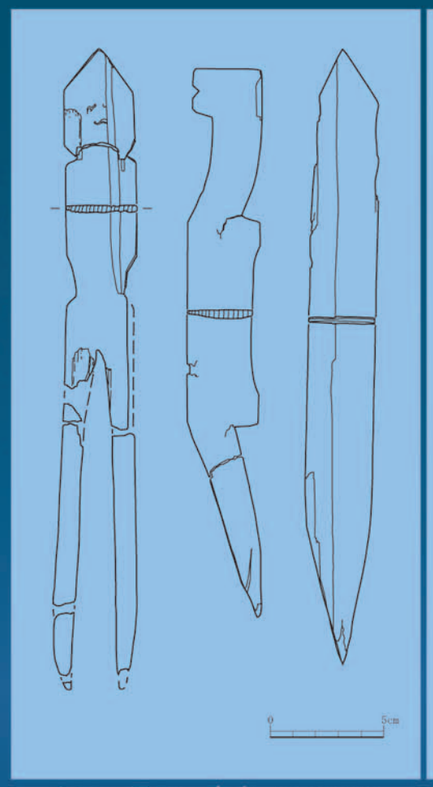
中世の宇宙観

「五大思想」では、宇宙（あらゆる世界）は、地・水・火・風・空から構成されると考えています。それを象徴する五輪塔は、鎌倉時代以降一般的となり、供養塔や墓碑として現在まで造塔され続けています。戦国期には、石材として数多く転用されました。

結界

奈良時代には、国家祭祀として「罪穢」を「潔め」「祓う」ことが行われました。斎串で結界した祭場では、穢を負わせる形代としての人形や馬形などを流し、祟神の威力を妨げる呪術として土馬などを損壊したと考えられています。平安時代中頃以降、災いを除き安穏を願った呪術の一種が民間に広く流布しました。呪符木簡はその呪術具です。

土馬（辻井遺跡）



人形・馬形・斎串（辻井遺跡）

呪符木簡

安坂・城の堀遺跡　祭祀の復元図（イラスト 小東憲朗氏　多可町教育委員会提供）